

第5回夕張市高等学校対策委員会会議録

- 1 日 時 平成26年5月26日(月) 午後6時～午後6時50分
- 2 場 所 夕張中学校 2階 多目的室
- 3 出席者 波佐尾・伊藤・松倉・今・長田・白井・小網・加藤・澤井・有村・小林委員
- 4 委員長挨拶 小林委員長

5 報告事項

- (1) 委員の変更について
- (2) 平成26年度公立高等学校配置計画地域別検討協議会(第1回)について

6 意見交換

委 員

4月に赴任いたしました中学校長の長田でございます。よろしくお願いいたします
ます。

4月スタートいたしまして、3年生に関わらずとても落ち着いて生活している
ところですよ。

先々週3年生については修学旅行で東京の方に行ってまいりまして、大きなト
ラブルやら病気もなく、順調に戻ってまいりました。

今、そのまとめを作っているところではありますが、とても良い内容でなかつた
かなと思っております。

2年生につきましては、先週宿泊学習を行ったところでありまして、とても内
容の濃い宿泊学習であったと思っております。

部活動も一生懸命行っておりまして、特に春季のバスケットボール大会がつい
この間あったのですが、女子バスケットについては優勝しましたし、また、
岩見沢ロータリークラブ杯の野球大会があったのですが、そこでも野球部が準優
勝ということで、それも本当においしいところで、決勝で、僅差で負けてしま
ったけれども、7月に中体連がありますので、ぜひ活躍していただきたいと思
っております。

65名の3年生ということで教育長からも数字が出ておりましたけれども、4月
に入りましてから進路調査ということで、もちろん確定ではありませんが、お
およその調査をしたところでもあります。

若干5・6名が未定であるという生徒がいる中で集計をしたところ、やはり昨
年66%程度夕張高校に行ったわけですが、今年もそれと同じような数字が
出てきているところですよ。調べてみますと、今までずっと生徒にも保護者にも

間口がもしかしたら1間口になるかもしれない、ということで昨年から指導してきておりますので、2間口になるということはまだ一言も言っておりません。

そのようなこともあって競争率が付くのであれば、他の学校に行こうかなという子どもも、どうもいるようなことも話しておりました。

ですから、そのところは子ども達の考え方、保護者の皆様方の考え方が、もし2間口になれば夕張高校にというふうになろうかなという感じですが、いずれにいたしましても40名を超えることは、今のところ間違いないという状況で、40名プラス5になるか、まだ5・6名の生徒が未定ということがありますので、それを加味していくともうちょっと増えるのかなと思っているところであります。

学校としては何としても道教委には2間口をお願いをして、全員希望どおり進路が実現できるように、学校としてはお願いしたいと思っております。

もちろん先ほど申し上げたとおり、子ども達や保護者の皆様には今の所1間口になる可能性が高いということで指導はしていきますが、また、結果が出ましてから再度集計をかけまして、皆様には報告いたしたいと考えております。

以上でございます。

委員

先ほどご紹介いただきまして、4月1日付けで礼文高校から赴任してまいりました。

最初に話をする前に、本校の存続といいますが、このように多くの方々のご支援をいただいていることに対して、大変私も肩身が狭いやら、また心強いやらという形で今後ともいろんな場面でご支援をいただくかと思いますが、どうぞよろしく願いいたします。

本校において、私の本来の学校経営ビジョンの中身は、生徒一人ひとりに対してどれほど先生方が手を掛けられるか、少ない人数に対してどれだけ成果の上がる対応をできるかといったようなことを、先生方には常日頃投げかけております。

最終的に夕張高校が、「そこに夕張高校しかないから」「行けないから夕張高校に行くしかないんだ」といったような考えにおちいるような、中学校の卒業生の子ども達にはそのような想いをさせたくない、つまり「選ばれて、誇れて、そして信頼される、そういう学校づくりに今後先生方の力を借りてやっていかなければならない」という話をつい先日学校経営のビジョンとしてお話しさせていただいたところであります。

個人の差はかなり大きなものがありますが、であれば、その個人の差に対してどういったアプローチをしていくことができるか、ということはこれからの先生方、色々な面で補完的なサポートの仕方を考えていきたいと思いますということも話しております。

あと、部活動について、大変今バスケットが、今回残念ながら、今まで100点ゲームで負けていたそういうチーム事情があったみたいですが、今回男子

は残念ながら5点差で負けてしまいました。

女子については、指導者が入ってきました。

その指導者の下、大変生徒達が活発に活動するようになって、学力と共に部活動にも力を入れるようになってまいりました。

それから、野球部も新聞等でご存じのとおり、強豪の砂川に対しては6対3というような惜敗をしたところでございました。

将来この夕張高校が、夕張中学校の卒業生全員が本校に入学してくれる、そういったような環境づくり、システム、学力をつける学校、進学に対しても実績のある学校にしていきたいと、この4月赴任そうそう先生方には耳の痛い話をたくさんさせていただいております。

とにかく、選ばれる学校にならなければならないということを強く訴えているところであります。

今後も色々ご支援をいただくことになると思いますが、どうぞよろしく願いいたします。

委員長 ありがとうございます。今両校の校長先生からお話しがありましたけれども、何かご質問等ありませんでしょうか。

委員長 夕張高校の「こういう学校だよ」ということを中学生に知らせるといようなことは、去年はだいぶ意識して行っていたのですけれども、今年度も何か特徴的なものはありますか。

委員 生徒、保護者を対象に高校の先生方に来ていただいて、「こういう高校ですよ」「出口はこうなっています」「こんな進路先があります」等々PRをしていただいたり、また、出前授業で高校の先生方に来ていただいて、教科の授業を中学校で行っていただくということで、中学校と高等学校が連携しながら夕張高校を私どもの生徒が理解を深めるという機会を一回一回と行いながら深めていきたいと考えております。

委員 長田校長先生とは社会教育の大先輩で、その繋がりがございますので、地域との連携ということについてはものすごく強く意識しているという、私のみならず長田校長先生もそうだと思っております。

そのような面では地域の連携、これはもう社会教育だとか、地域の住民の人達との連携は当然のことです。

そして、学校と学校の連携というのは、これは強くしていかなければいけないとそう思っております。

長田校長先生とのパイプですとか、そういうものをしっかりと持ちながら、たとえば部活動であればお互いに交流試合をしたりですとか、合同練習をしたりで

すとか、そういったような形で対応していきたいと担当の先生にも話をしております。

それから、先ほど出前授業という話がありましたけれども、私どもの方では、出前授業というのさることながら、出前授業というのはある意味他校の方の、いわゆる中学校さんの方のカリキュラムを少し邪魔する可能性もあるわけです。

ですから、そうではなくて同じ教科の中で、教科の先生がTTとして入って、そのTTで学力の低迷しているお子さんに直接アドバイスができるような、そういうティーム・ティーチングといった形も強く働きかけて行こうという話もしております。

これは中学校さんのみならず、小学校さんにも私どもの教員の方ではやっているというふうに考えております。

いずれにせよ、この地域で育った生徒達は、この地域のみんなで力を併せて、力をつけて将来の夕張を背負っていく、自力がある大人を形作っていかうというふうな形で私ども高校では考えているところであります。

とにかく色々な面で、色々な方向にネットワークを張り巡らせて教育推進というところに向かって進んでいきたいと思っております。

委員長

ありがとうございました。いかがでしょうか、質問等ないでしょうか。

委員長

先ほどもお話ししましたけれども、道教委が原案を出すのが6月3日の予定と聞いておりますが、その時点でどのようになっているか、それがひとつ問題になるかと思っております。

今校長先生からお話しがあったように、今年に入ってから感触は悪くはないのですが、はっきりしないことにはどうにもなりませんので、その点押さえておいていただければと思います。

もし、それが我々の想定することと違った結果、ようするに現状維持ということになれば、当然我々としては今までお話しをしてきた要求、要請の声が届いていないということですので、しかるべき動きをしたいと思っております。

したがって、場合によってはこの3日の原案の出たあと緊急にこの会議を開くことも想定しておきたいと思いますが、その点はよろしいですね。

今後のスケジュールはどうなっておりますか。

事務局

今申し上げたように、6月3日に道教委から計画案が出されるというお話しを聞いております。

その後7月の中旬から下旬にかけて第2回目の地域別検討協議会が各地域で行われるということになります。

その後9月上旬に決定する予定というようなことを道教委から聞いております。

委員長

7月の中旬から下旬というのは、計画案に対してそれぞれの地域でどうするかという会議になります。

したがって、我々はずうっと言ってきたので、先ほども申し上げましたように、6月3日道教委の原案が1なんていうことになれば、我々は7月中旬、下旬の地域別検討協議会を待たずに、その前に動くという対応をしたいと思っておりますので、努々そういうことがないことを期待して、当面この6月3日を迎えたいと考えております。

よろしいでしょうか。

それから、次に想定されるのはキャンパス校という問題になると思いますが、これについてはもう一度、この後の問題として考えていかなければならないひとつだと思っております。

ただ、このキャンパス校も、基本的には20名を割ると原則廃止ということになっているものですから、今、町村教育委員会の教育長会がこれをもっと下げてほしい、15名までならないものかという運動がそろそろ始まってきております。

それは、とりもなおさず新しい高校の指針の見直しということに繋がっていくかと思うのですけれども、夕張も7年とか8年とかいう単位で考えるとかならずその時期が来るという状況も一方では考えられてきますので、そういったもの全体を見通しながら考えていく必要があるのかなと思っておりますので、まず、とりあえずは来年度2間口を維持するというところに一番大きな力を注いで、これがはっきりした段階で、また次の段階を考えていくという流れで進めていきたいと思っております。

本日はこの程度で終了してよろしいでしょうか。

委員全員

よろしいです。

委員長

それではこれで終了させていただきます。

7 その他

事務局

今後の日程ですけれども、今委員長も申しましたように、6月3日の計画案の出方によっては、その後間もなく皆様にお集まりをいただく可能性があるということでお含みおき願いたいと思います。

その後は7月中旬から下旬に第2回の地域別検討協議会が開催されることとなりますので、それが終了してからまた皆様にお集まりをいただくという形で考えておりますので、お含みおきいただければと思っております。

8 閉会

配布資料等一覧

- 資料 1 夕張市高等学校対策委員会委員名簿
- 資料 2 平成 26 年度公立高等学校配置計画地域別検討協議会（第 1 回）教育長発言要旨
- 資料 3 新たな高校教育に関する指針 概要版
- 資料 4 平成 26 年度地域別検討協議会 P T A 関係者説明資料
- 資料 5 北海道の新しい高校づくり 2 0 1 4